

日本コンクリート工学会四国支部 研究委員会  
「四国における新設コンクリート構造物の品質確保の実践に関する研究委員会」  
第3回全体委員会 議事録（案）（簡易版、公開）

日 時：2019年1月21日(月)14:00-17:00

場 所：高松市ヨット競技場 2階 大会議室

出 席：林委員長，岡崎幹事長，渡邊委員，北川委員，原田委員，井上委員，横田（昭）委員，荻田委員，安達委員，金滝オブザーバー，高野オブザーバー，石井オブザーバー，合田オブザーバー

議事録：岡崎

配布資料：

- 3-1 第3回 議題
- 3-2 第2回 議事録(案)
- 3-3 委員名簿（1/21 現在）
- 3-4 四国のコンクリート品質確保の方向性
- 3-5 各種チェックシート
- 3-6 課題調査シート（11件：1-1～4-4）
- 3-7 FAの利活用に関するアンケート結果
- 3-8 香川県インフラメンテナンス勉強会の案内

議 事：

1. 委員長挨拶

林委員長より挨拶がなされた。国土交通省四国地方整備局によるトンネル品質確保の手引き作成，フライアッシュを用いた工事などのプロジェクトが始まっているので，これらのプロジェクトを見守りつつ，今後の方向性を審議し，1つでも多く品質確保の実践を行って参りたいことが述べられた。

2. 委員自己紹介

新任の合田オブザーバーより自己紹介がなされた。

3. 前回議事録の確認

岡崎幹事長より前回議事録の確認がなされた。記載に若干不備があったため，修正することとし，承認が得られた。

4. 本委員会の方向性

林委員長より，資料 3-5 に基づいて本委員会および四国におけるコンクリートの品質確

保に関する方向性について説明がなされた。四国では産業副産物の利用が積極的に求められているがフライアッシュ、銅スラグなど選択肢がいくつかあること、寒暖の差が激しく、寒中・暑中コンクリートに関する知識と技術を要すること、発注量が減少していること、技術者不足であることが問題として挙げられている。このような状況にあって、本来備えるべき品質とはなにかを考え、自ら定義し、仕様書の規定を守ることのみではなく、コストも勘案しながら実践すること、知識や実践を獲得することで生産性向上、働き方改革、人材育成を各組織・各会社、各個人が行って、技術者不足をカバーすることが望ましいことが述べられた。

これを実現すべく、委員会内では、現在委員、オブザーバーが実践されていること、その成果および実践にあたっての問題点や相談内容を情報共有しつつ、学会という場で、各委員・オブザーバーにより解決策を提示しつつ、可能な限り活動のバックアップを行うことで意志の統一が図られた。なお、2年間の活動終了後には、報告書の発刊と報告会（講習会）を開催する必要があるため、これらの成果を報告したいとの旨が委員長より述べられた。

## 5. 四国内の品質確保の事例紹介

### 5.1 四国地方整備局における品質確保試行工事の実施について

渡邊委員により説明がなされた。無事、品質確保試行工事のキックオフできた。産官学で入念に事前調整をし、トンネルでは新猪ノ鼻トンネルを、橋梁では徳島県の橋梁を対象に、資料 3-4 の施工状況把握チェックシートおよび目視評価方法を実践している。PDCAサイクルが達成されていることを今後確認することが述べられた。今回、実践している手法は、発注者から施工者まで関係者をぜんぶ巻き込んで実施している、というのが大事である。

### 5.2 フライアッシュを内割使用した試行工事の表層品質結果について

林委員長より種々の養生を施した場合の、FAコンクリートの実構造物での表層品質について説明がなされた。養生が良好であると、吸水係数は低下し、密実性が向上することが報告された。

## 6. 四国におけるコンクリート品質確保に関する課題抽出

資料 3-6, 3-7 に基づき、各委員より、四国におけるコンクリート品質確保に関する課題について説明がなされた。引き続き委員より活動内容や課題点を報告いただき、解決策を模索してゆく。

追加の課題提出、修正も受け付ける。

## 7. その他

次回日程は予算残額を考慮して、幹事会で決定し後日連絡する。

以上